

平成30年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	電子系を舞台とした量子ガラス科学の創成と物性科学への展開
研究代表者	鹿野田 一司 (東京大学・大学院工学系研究科・教授) ※平成30年7月末現在
研究期間	平成30年度～平成34年度
コメント	<p>本研究は、電子系が量子的なガラス状態を形成するという全く新しい概念を確立し追求しようとするものであり、高い独創性を有している。</p> <p>これまで応募者らは、有機導体における電子相関電子系の研究で世界をリードしてきており、その中で電子系のガラス的振る舞いを発見した。これを端緒として、本研究では、電子系とソフトマターを融合して新しい研究領域の開拓につなげることを目標としている。</p> <p>研究体制の強化が図られ、これまでの物性測定に加えて物質開発探索研究、理論研究も行う計画であり、十分な研究成果を上げながら、量子ガラス科学を開拓していくことを期待する。</p>